

平成 2 6 年度

第 1 / 3 回

(課題別研修)

生物多様性保全のための環境教育技能向上

実施要領

平成 2 6 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	5

付属資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 カリキュラム（案）

付表－3 平成 26 年度日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：（課題別研修）生物多様性保全のための環境教育技能向上

英文：“Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation”

(2) 受入期間

平成 26 年 9 月 23 日（火）～10 月 25 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 26 年 9 月 29 日（月）～ 10 月 24 日（金）

(4) 定員、割当国

定 員：10 名

割当国：カンボジア、ドミニカ、エクアドル、マレーシア、中国、コスタリカ、イラン（下線は受入国）

(5) 類型 人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

2. 案件の背景・目的

JICA では、自然環境保全を国際協力の重点分野のひとつと位置付け、「自然環境の維持と人間活動の調和を図る」ことを目的として事業を行っている。「自然環境の維持と人間活動の調和を図る」ためには、法制度の整備や行政による管理に加えて、住民参加による保安全管理や一定規模の自然資源利用を認めることが重要である。一方で、開発途上国では、住民との合意による保安全管理や資源利用が行われている事例は少なく、住民と交渉する立場にある中央・地方政府機関職員が、インタープリテーション等（※）の環境教育技能を身につけ、行政業務にこれを活用していくことが求められる。

本コースでは、参加者が習得したインタープリテーション、ファシリテーションなどの環境教育技能によって、参加者の所属する現場レベルで課題発見を効果的に行えるようになることを目的としている。

※ インタープリテーション：住民の意向を反映した行政施策の実施が自然環境の保全には重要との考えから、これを適切に組み上げるための手法。

3. 案件目標

参加者が習得したインタープリテーション、ファシリテーションなどの環境教育技能によって、参加者の所属する現場レベルで課題発見を効果的に行えるようになる。

4. 単元目標

- (1) レポート作成や、レポート発表時の討議を通じて、自らの課題や達成すべき目標が明らかになる。
- (2) インタープリテーションの意義と手法を理解したうえで、聞き手の注意を喚起する情報発信方法が身に付く。
- (3) 問題分析を行うため、ファシリテーション技術を身に付け、自身のレポート作成に活用できるようになる。
- (4) PCM 手法を活用した課題発見、分析能力を向上させ、適切な課題解決法を習得する。

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修員の担当地域・保護区での課題分析や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「アクションプラン（Action Plan）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（４）にかかる行動計画（案）を作成し、コース終盤に発表する。

- (3) 帰国後の事後活動のフォローアップ

「質問票（Questionnaire）」への回答

研修員は帰国後、アクションプランに書かれた行動計画（案）の進捗状況を、JICAから送付される質問票に回答する。研修実施機関（JEEF）は、質問票に対するコメントを付して、各研修員に送付する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 自然環境保全分野において、国立公園や野生生物保護区の現場レベルで活躍する中央、地方政府職員
- イ. 3年以上ステークホルダーとの合意形成業務に関わる立場にある者
- ウ. 現在、または将来にわたって、継続的に自然環境保全業務に従事する者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL IBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本コースは、コースリーダーである臼杵裕之氏の助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター（帯広）（以下 JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を日本環境教育フォーラム（以下 JEEF）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、JICA は研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（案件目標、単元目標、研修期間等）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) JEEF

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件到達目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、JEEF 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、JICA 帯広で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明のほか、日常生活を送る上での諸注意等を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・経済・教育・行政などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として4. 5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程		内 容
9月24日(水)	午前	ブリーフィング 日本語研修(夜間)
9月25日(木)	午前 午後	ジェネラルオリエンテーション「日本の教育」 ジェネラルオリエンテーション「日本の経済」「日本の政治・行政機構」 日本語研修(夜間)
9月26日(金)		日本語研修(夜間)

10. 主な宿泊場所

北海道国際センター(帯広)

所在地: 〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-1210 Fax (0155) 35-1250

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員にJICAから修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

以上

科 目	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義内容
単元目標1:研修の参加目的を明確にし、他の研修員・コースリーダーと研修員自身の問題意識の共有を図る						
単元目標2:講義を通じ、環境教育の活用方法及び、効果について理解する						
レポート課題の発表及び導入講義	9			6	田儀耕司 (JEEF) JICA地球環境部	自分の課題を明らかにし、研修の参加目的を明確にする
日本の事例から学ぶ～道東のエゾシカの食害事例	3	6	3		上野真由美(環境科学研究センター道東地区野生生物室) 北海道庁、浜中町役場、地元農家より5名	地域住民、NGOへのインタビューを行い、食害問題の解決策を提案する中で、課題発見・分析、課題解決法の提示の難しさを実感する
単元目標3:課題発見に必要なインタープリテーション、ファシリテーションの手法を身につける						
インタープリテーション入門	3				古瀬浩史(帝京科学大学)	インタープリテーションが受け手の関心や興味を高め、メッセージを正しく伝える上で有効な手段であることを理解する
日本の事例から学ぶ～豊岡市コウノトリ野生復帰事業の見学		3	3		菊地直樹(人間文化研究機構総合地球環境学研究所)	兵庫県豊岡市では、2005年からコウノトリの野生復帰の取り組みが行われてきている。絶滅種の野生復帰上の課題として、住民の位置付けの難しさが挙げられるが、豊岡市では約75%の人が放鳥に対して好意的な見解を示すという調査結果が出ている。住民の意識が総じて肯定的なのは、放鳥に至るまでに関係者による住民への普及啓発が効果的に行われたからであり、本見学・討議では、インタープリテーションを通じた住民との合意形成、住民意識の改善の事例を学ぶ
インタープリテーションの実習		3			田儀耕司 (JEEF)	インタープリテーションを活用し、聞き手の注意を喚起するメッセージを伝える技術を習得する
ファシリテーション入門		6			広石拓司(エンパブリック)	ファシリテーションがステークホルダーのニーズの把握、ステークホルダー間の意見の取りまとめに有効であることを講義、演習を通じて学ぶ
日本の事例から学ぶ～宮城県大崎市蕪栗沼の事例:NGO・地方自治体によるファシリテーション(ラムサール条約登録にいたるまで)	3	6	3		戸島潤(蕪栗ぬまっこくらぶ)	保護政策上は無指定だった蕪栗沼が、NGO、地方自治体、地域住民の間で合意形成がなされ、ラムサール条約登録湿地に至った経緯を学ぶ
課題発見手法の習得に関する振り返り		3			田儀耕司 (JEEF)	課題発見手法の習得を確認する
単元目標4:課題分析・合意形成に必要なPCM手法を習得する						
PCM研修を用いた課題分析のワークショップ		6			田儀耕司 (JEEF)	PCM研修の関係者分析、課題分析、目的分析、プロジェクト選択の演習を通じ、課題発見・分析から、問題解決法の導き方までを学ぶ
PCM手法の実習		6			田儀耕司 (JEEF)	実際の保護区管理の事例を題材に、PCM手法を用い、課題発見・分析から、問題解決提案までを実習する
日本の事例から学ぶ～課題分析から問題解決に至った事例:道東のエゾシカの食害対策	3	6			田儀耕司 (JEEF) 上野真由美(環境科学研究センター道東地区野生生物室) 曾我部元親(北泉開発)	道東のエゾシカの事例から、どのように課題分析から問題解決に至ったのかを学ぶ
課題分析から問題解決手法の提案までの振り返り		3			田儀耕司 (JEEF)	PCM手法を用いて、課題分析から問題解決手法の提案までを行えるのか、研修員の理解度を確認する
単元目標5: 自国において、研修員自身が取り組む課題を見直し、より良い解決策提案を行う						
レポートの修正指導		21		3	田儀耕司 (JEEF)	研修員が研修で得た学びを振り返ると共に、自身の課題を見直し、より実現可能な課題解決法を提案しているかどうか確認する
合計	21	69	9	9		

日 程 表

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等	研修場所
9/23(火)			来日		
9/24(水)	9:30 ～ 17:30		ブリーフィング	JICA北海道(帯広)道東業務課	JICA北海道(帯広)
	18:00 ～ 19:30		日本語講習	木村 敦子	JICA北海道(帯広)
9/25(木)	9:30 ～ 11:30		ジェネラルオリエンテーション(日本の教育)	帯広大谷短期大学 名誉教授 池添博彦	JICA北海道(帯広)
	13:00 ～ 15:00		ジェネラルオリエンテーション(日本の経済)	(株)ジョイ・インターナショナル 代表取締役 浦島 久	JICA北海道(帯広)
	15:15 ～ 17:15		ジェネラルオリエンテーション(日本の政治・行政機構)	帯広畜産大学 講師 ロメロ・ホシノ・イサミ	JICA北海道(帯広)
	18:00 ～ 19:30		日本語講習	木村 敦子	JICA北海道(帯広)
9/26(金)			インセプションレポート発表準備 (自習)		JICA北海道(帯広)
	18:00 ～ 19:30		日本語講習	木村 敦子	JICA北海道(帯広)
9/27(土)			休日		
9/28(日)			休日		
9/29(月)	9:30 ～ 10:00		市長表敬訪問		JICA北海道(帯広)
	14:00 ～ 17:00	講義	コースオリエンテーション／インセプションレポート発表準備	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道(帯広)
9/30(火)	9:30 ～ 12:30	発表	【インセプションレポート発表会】レポート発表、意見交換	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道(帯広)
	14:00 ～ 17:00	発表	【インセプションレポート発表会(続き)】レポート発表、意見交換	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道(帯広)
10/1(水)	9:30 ～ 12:30	講義	【環境教育の役割と効果】 自然環境分野における環境教育の果たす役割とその効果について、事例を交えて講義説明を行う	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道(帯広)
	14:00 ～ 17:00	講義	【日本の自然環境分野の援助方針】 CBD, RED+など、日本の開発援助における自然環境分野の位置づけの概論的な講義を行う	JICA地球環境部	JICA北海道(帯広)
	17:00 ～		貸出物配布(レインウェア(上))	JEEF、JICAアシスタントスタッフ	JICA北海道(帯広)
10/2(木)			移動 (帯広 → 釧路市)		
	14:00 ～ 17:00	講義	【シカの食害の現状】 道東のシカの食害の背景、現状を講義で紹介	環境科学研究センター道東地区野生生物室 上野真由美	釧路地方合同庁舎 第3会議室
10/3(金)	9:30 ～ 12:00	見学	【シカの食害の現状(続き)】 エゾシカの食害現状の見学(樹皮はぎ)等 【シカの食害の現状(続き)】 ステークホルダーを招待し、1グループ 5名に分け、グループに分かれてインタビューを実施する ＊ インタビューの際、エゾシカの間引き、再利用の必要性を一般の人に理解してもらうためのインタープリテーションを作成してもらうので、それに留意してインタビューを行ってもらう。	環境科学研究センター道東地区野生生物室 上野真由美	厚岸市内、浜中町内
	14:00 ～ 17:00	実習	【シカの食害の現状(続き)】 エゾシカの間引き、再利用の必要性を一般の人に理解してもらうためのインタープリテーションを作成してもらう	環境科学研究センター道東地区野生生物室及び 北海道庁、浜中町役場、地元農家 上野真由美他5名(道庁2名、浜中町1名、農家2名 (岩松富士麿、鈴木亨))	浜中町役場茶内支所
10/4(土)	10:00 ～ 13:00	実習	【シカの食害の現状(続き)】 インタビューの結果を取りまとめ、解決策案を作成	環境科学研究センター道東地区野生生物室 上野真由美	釧路市民活動センターわっと第2会議室
	14:00 ～		移動 (釧路 → 帯広)		
10/5(日)			移動 (帯広 → 羽田 → 伊丹 → 豊岡)		
10/6(月)			休日		
	14:00 ～ 17:00	講義	【インタープリテーション入門】 インタープリテーションの考え方。課題発見の前に、ステークホルダーに正しく情報が伝えられるよう、メッセージの伝え方を学ぶ	帝京科学大学 古瀬浩史	じばさん但馬(但馬地域地場産業振興センター) 豊岡市内
10/7(火)	9:00 ～ 12:00	見学	【豊岡市コウノトリ野生復帰事業の見学】 ステークホルダーへの合意形成のため、豊岡市でコウノトリ放鳥に際してインタープリテーションが活用されている事例を見学する	人間文化研究機構総合地球環境学研究所 菊地直樹	豊岡市立コウノトリ文化館及び周辺の田んぼ
	13:00 ～ 16:00	実習	【豊岡市コウノトリ野生復帰事業の見学(続き)】 事例見学後、豊岡市でコウノトリ放鳥に対する住民の印象が良い理由はなぜか、インタープリテーションがどのように行われたのか、コースリーダー、研修員間で討議を行う	人間文化研究機構総合地球環境学研究所 菊地直樹	豊岡市立コウノトリ文化館
10/8(水)			移動 (豊岡市 → 東京)		
	15:30 ～ 18:30	実習	【インタープリテーション実習】 インタープリテーションの技術を用い、地域住民へ保護区の新設に関する告知を行うというテーマで実習を行う	JEEF 田儀 耕司	JICA東京
10/9(木)	9:30 ～ 12:30	実習	【ファシリテーション入門】 ファシリテーションとは何かについて、講義で学んだ後、小グループあるいは、個人間で	エンバブリック 広石拓司	JICA東京
	14:00 ～ 17:00	実習	実習を交えながら、学びを深める	エンバブリック 広石拓司	JICA東京
10/10(金)	9:30 ～ 12:30		移動 (東京 → 大崎市)		
	14:00 ～ 17:00	見学	【蕪栗沼の見学】 蕪栗沼の見学、地元NGOから活動等の紹介を受ける:	蕪栗ぬまっこらぶ 戸島潤	蕪栗沼(見学)
10/11(土)	9:30 ～ 12:30	講義	【日本の事例から学ぶ～宮城県大崎市蕪栗沼の事例】 地元NGO蕪栗ぬまっこらぶから、蕪栗沼が地方自治体、地域住民の理解を得て鳥獣保護区、ラムサール条約登録に至った経緯を学ぶ	蕪栗ぬまっこらぶ 戸島潤	四季彩館
	14:00 ～ 17:00	実習	【日本の事例から学ぶ～宮城県大崎市蕪栗沼の事例】 ステークホルダーを招待し、1グループ3-4名に分け、グループに分かれてインタビューを実施する	蕪栗ぬまっこらぶ 戸島潤	四季彩館

付表－3

日付	時刻	形態	研修内容	講師又は見学先担当者等	研修場所
10/12(日)	9:00 ～ 12:00	実習	【日本の事例から学ぶ～宮城県大崎市蕪栗沼の事例】 インタビューの結果を取りまとめ、研修員間でラムサール条約登録に至ったポイントを取りまとめ、発表する。コースリーダー、地元NGOからのフィードバック	蕪栗ぬまっこらぶ 戸島潤	大崎市大貫公民館
	14:00 ～ 17:00		移動（大崎市 → 仙台 → JICA東京）		
10/13(月)			休日		
10/14(火)	9:30 ～ 12:30	実習	【課題発見手法の習得に関する振り返り】 課題発見手法の習得に関する講義、見学、実習等について、コースリーダー、研修員間で振り返りを行う	JEEF 田儀 耕司	JICA東京
	14:00 ～ 17:00	実習	【PCM研修を用いた課題分析のワークショップ】 1) PCMの考え方、概要について講義を行う 2) 講義の際、保護区管理など、研修員の身近な問題である自然環境保全の事例を用いながら、説明を行う	JEEF 田儀 耕司	JICA東京
10/15(水)	9:30 ～ 12:30	実習		JEEF 田儀 耕司	JICA東京
	14:00 ～ 17:30	実習	【インドネシア・グヌン・ハリムン・サラク国立公園の事例の紹介】 JEEFインドネシア事務所の過去の事例を用いて、課題発見から課題分析、合意形成に至るまでの経緯を説明する	JEEF 田儀 耕司	JICA東京
10/16(木)	9:00 ～ 11:30	実習	【研修員の事例を用いたワークショップ】 1) 研修員を2グループに分け、て、課題発見から課題分析、合意形成に至るまでの経緯を説明する 2) 演習を実施する際、次の作業も含めて行う ① 関係者分析の実施：ステークホルダーのリストアップ、ステークホルダーの望むこと、望まないことの整理 ② 問題分析の実施：ステークホルダーと問題の関連性も含める ③ ①、②についての発表、ディスカッション	JEEF 田儀 耕司	JICA東京
	12:30 ～ 14:30	実習			JICA東京
			移動（JICA東京 → 羽田空港 → 帯広空港 → JICA帯広）		
10/17(金)	9:30 ～ 12:30	実習	【日本の事例から学ぶ～課題分析から問題解決の提示に至った事例：エゾシカの食害事例】 これまでの講義や見学での学びをもとに、8日目で作成した課題の見直しを行う	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
	14:00 ～ 17:00	講義	【日本の事例から学ぶ～課題分析から問題解決の提示に至った事例：エゾシカの食害事例】 ステークホルダーを前に、エゾシカ問題の解決案を提示	環境科学研究センター道東地区野生生物室 上野真由美	JICA北海道（帯広）
10/18(土)			移動（JICA帯広→阿寒本町北泉開発）		
	10:00 ～ 12:30	実習	【日本の事例から学ぶ～課題分析から問題解決の提示に至った事例：エゾシカの食害事例】 実際の解決案の一例を見学：エゾシカの食肉利用の事例 阿寒本町北泉開発の見学～ふりかえり	環境科学研究センター道東地区野生生物室上野真由美・北泉開発曽我部元親	阿寒本町北泉開発
			移動（阿寒本町北泉開発→JICA帯広）		
10/19(日)			休日		
10/20(月)	9:30 ～ 12:30	実習	【課題分析から問題解決手法の提案までの振り返り】 課題分析から課題解決手法の提案までに関する講義、見学、実習等について、コースリーダー、研修員間で振り返りを行う	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
	14:00 ～ 17:00	実習	【レポートの修正指導】 1) 研修員に2,3日目に提案したレポートを自己修正してもらう 2) 研修員が疑問点を持っている場合、コースリーダーが指導を行う	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
10/21(火)	9:30 ～ 12:30	実習		JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
	14:00 ～ 17:00	実習		JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
10/22(水)	9:30 ～ 12:30	実習	【レポートの修正指導】 3) 修正の済んだ研修員から順に、研修の学びを生かした、実現可能課題解決法が提案されているかどうか、コースリーダーが確認を行う	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
	14:00 ～ 17:00	実習		JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
10/23(木)	9:30 ～ 12:30	実習	【レポートの修正指導】 3) 修正の済んだ研修員から順に、研修の学びを生かした、実現可能課題解決法が提案されているかどうか、コースリーダーが確認を行う	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
	14:00 ～ 17:00	発表	【インテリムレポート発表会】 各研修員が修正したレポートを発表し、コースリーダー、他の研修員と共有する	JEEF 田儀 耕司	JICA北海道（帯広）
10/24(金)	10:30 ～ 11:30		評価会(その後著作権利用許諾書サイン取り付け)	JICA北海道（帯広）道東業務課 西垣 美佐子	JICA北海道（帯広）
	11:30 ～ 12:00		閉講式	JICA北海道（帯広）道東業務課 西垣 美佐子	JICA北海道（帯広）
	12:00 ～ 13:00		閉講パーティー		JICA北海道（帯広）
10/25(土)			帰国		

年 度 別 受 入 実 績 表

1. 応募／選考（受入）人数

	平成26年度	累計
応募数	10名	10名
受入数	10名	10名

2. 研修員出身国

○男性 ●女性

国名	平成26年度	累計
カンボジア	○	1名
ドミニカ	○	1名
エクアドル	○●	2名
マレーシア	○○ (C/P)	2名
中国	○ (C/P)	1名
コスタリカ	○● (C/P)	2名
イラン	● (C/P)	1名
合計	7カ国 10名	7カ国 10名



独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター（帯広）
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL：0155-35-1210 FAX：0155-35-1250
ホームページ：www.jica.go.jp/obihiro/
メール：jicaobic@jica.go.jp